

第5戦は水越選手がポールtoウィン 第6戦は東選手が序盤の逆転で初優勝を飾る



■2018年2月25日 ■鈴鹿サーキット国際南コース（三重県） ■曇り（ドライ） ■参加台数：第5戦 18台/第6戦 19台

2017年9月から2018年8月にわたって行なわれる ROK SHIFTER CUP 2018 鈴鹿シリーズ。その第5戦/第6戦（全12戦・6大会）が2018年2月25日、三重県・鈴鹿サーキット国際南コースで開催された。

レースはタイムトライアルの結果で第5戦のスターティンググリッドを、第5戦の結果で第6戦のスターティンググリッドを決める方式。10周の第5戦では上位10台に12点～1点、16周の第6戦では上位15台に25点～1点のシリーズポイントが与えられる。

2018年に入って最初の大会にエントリーしたのは、最年少15歳、最年長56歳の19名。元&現役の全日本ドライバー、各地で活躍するホビーカーター、女性ドライバー、海外からの参加者等々、バラエティ豊かな顔ぶれが春間近の鈴鹿に集まった。

決勝日の空模様は曇り。時おり吹く風にはまだ真冬の寒さが漂う。まず行なわれたタイムトライアルでは、前回の第4戦で2位となった水越健太選手（MOMOX）が46秒949で他車に0.1秒以上の差をつけトップに。2番手の東拓志選手（NEXT-ONE Racing）と3番手の廣岡陸勢選手（トレンタクワトロ）のギャップは、わずか1000分の5秒。上位8台が0.4秒強の中にひしめく実力伯仲のタイムトライアルだった。



Round 5

(10 LAPS)



10周の第5戦は1台が出走できず18台でのレースとなった。ROK SHIFTER CUPならではのスタンディングスタートでレースが始まると、最初の動き出しが良かったのは2番グリッドの東選手。だが、水越選手は1コーナーまでの加速に勝り、トップをキープしてオープニングラップを終えた。一方、東選手は3番手にドロップすると、3周目にはバトルの際を突かれて5番手に後退。替わって廣岡選手が2番手に上がった。

水越選手は3周で約1.4秒のリードを築くと、アドバンテージを守りながらペースをセーブ。後続に逆襲のチャンスを与えることなく走り続け、危なげないポール・トゥ・ウィンで鈴鹿シリーズ初優勝を飾った。

水越選手の後方では、廣岡選手が率いるセカンドグループの戦いが終盤に入って白熱。廣岡選手の真後ろに7番グリッドから浮上の木下冬馬選手(8bドルチェカートサービスハタ)、伊藤慎之典選手(HRT)、東選手、小林弘直選手(HRT)が続いて5台一列のバトルが繰り広げられた。その集団の中で東選手がぐいぐいと順位を取り戻し、残り2周で廣岡選手もかわしてグリッドどおりの2位でフィニッシュ。廣岡選手もグリッドと同じ3位でチェッカーを受け、木下選手が4位に5・6位には伊藤選手と小林選手が入った。

WINNER : 水越 健太 選手

オートパラダイス御殿場のROK SHIFTER CUPでは何回か優勝しているんですが、鈴鹿での優勝は初めてです。ポールからトップのまま戻ってこられてうれしいです。スタートではクラッチミートのミスで動き出しが良くなかったんですが、その先で加速が伸びたおかげでトップをキープできました。最初の3周くらいで後ろが離れたことが分かったので、それ以降は体力温存を考えてペースをコントロールしていました。続く第6戦も若い子たちに体力負けしないよう走りたいです。

2nd PLACE : 東 拓志 選手

スタートはよかったけれど、そのあとやや集中力を欠いて失敗してしまいました。でもクルマの仕上がりが良くて、手応えを感じながら追い上げることができました。ただ、バトルにちょっと時間がかかってタイヤを使っちゃった感じです。昨日までの練習ではとても好調で、その流れだとトップを獲れるはずだったので、2位では今ひとつ満足できません。

3rd PLACE : 廣岡 陸勢 選手

ROK SHIFTER CUPは初めての参戦です。もうちょっと安定して走り続けて2位をキープできればよかったけれど、前に追い付くこともなく抜き返されてしまったので、もっと練習して体力もつけて、ちゃんとトップに着いていけるようになりたいです。このレースは楽しさがある一方、体力的にはハードで、後半戦の集中力を維持する難しさもありますね。

Round 6

(16 LAPS)



第5戦が行なわれた午前中よりやや冷え込んだ午後3時、16週の第6戦が始まった。ポールから2連勝を狙う水越選手は、今回もトップの座を守って1周目を終えた。だが、その背後に東選手が迫り、3周目に水越選手をかわして先頭に立った。2番手になった水越選手は東選手の真後ろに続き、2台一丸で3番手以降を引き離しながら周回を重ねていった。

しかしレースが10周をすぎると、水越選手は急にペースが落ちて東選手に引き離されていく。両車の間隔はじわじわと拡大。残り2周、その差約1.5秒に。勝負は決まった。東選手はピットレーンのチームメイトたちに向けて右拳を突き上げながら初優勝のチェッカーをくぐった。水越選手は1.6秒ほど後れての2位ゴールだ。

セカンドグループでも戦いが白熱。序盤には3番手を行く廣岡選手の後ろに木下選手、小林選手、伊藤選手が続いて接近戦を展開した。4周目、木下選手が廣岡選手をパスしてこの集団から逃げ出す。レース終盤戦にはそこに小林選手が接近したが、木下選手は0.2秒差で逃げ切って、ROK SHIFTER CUP 初参戦で3位を獲得した。小林選手に続く5位は廣岡選手。下野璃央選手（びいたあばん）が残り2周で伊藤選手をかわして6位となった。



WINNER : 東 拓志 選手

初優勝なので、ゴールの瞬間はやはりうれしかったですね。チャンスがあったらすぐに前を抜いてトップに出ようと思っていました。終盤はリードが広がって楽になったんですが、ここで気を抜くといけないと思って、最後まで気を引き締めて走りました。このレースは去年4輪ドライバーやOKクラスのドライバーがスポット参加していたけれど、今年またそういうドライバーが来ても勝てる、どんなドライバーにも負けないレースがしたいです。



2nd PLACE : 水越 健太 選手

いやーダメですね。悔しいです。もっと（東選手と）ふたりで後ろを引き離してからトップ争いをしたかったけれど、後半のバトルに持ち込むことができませんでした。セッティングをちょっと失敗して後半にエンジンがタレちゃったし、体力的にも厳しかったですね。でも、いい感触がつかめました。



3rd PLACE : 木下 冬馬 選手

今回はスポット参戦での初出場でした。本当は勝ちたかったんですが、最初なので仕方ないですね。ROK SHIFTER CUP はミッション操作もスタンディングスタートも、すごく楽しかったです。過去に乗ったカートとは比較にならないほど大きなトルクで、ヘアピン立ち上がりのすごいスピードも面白かったし、今までにない経験がいろいろできました。